

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 100

2016年4月19日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学領域の伊藤友孝 先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「ライフサイエンスワールド2016 第13回 アカデミック フォーラム」に出展します
2. 「産学連携学会第14回大会（浜松大会）」を開催します

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。
メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. アカデミックフォーラムに静大教員3名が出展します

アカデミック フォーラム（創薬・医療・バイオ 研究発表大会）は、大学・国公立研究所の研究者が、口頭発表やポスター展示を通して、バイオ研究の成果発表を行う場です。

来場者と発表者の間で、共同研究・技術移転・ライセンスに関する打ち合わせが多数行われるなど、大学－企業間を中心とした実質的な産学連携・パートナーリング案件が多数生まれています。

ぜひご来場ください。

【日時】2016年5月11日（水）～5月13日（金）
10：00～18：00（最終日は17：00まで）

【場所】東京ビッグサイト 西3・4ホール

【静岡大学の出展・発表内容】

大学院 総合科学技術研究科 工学専攻 助教 田代 陽介 ブース：A-02

口頭発表日時：5月12日（木）11:30～12:00 口頭発表会場：ACA-1

発表タイトル：微生物が分泌するベシクルを用いた選択的微生物制御の開発

大学院 総合科学技術研究科 理学専攻 教授 徳元 俊伸 ブース：A-03

口頭発表日時：5月12日（木）16:45～17:15 口頭発表会場：ACA-2

発表タイトル：活性型・ヒト型プロゲステロン膜受容体（mPR）の大量合成技術を確立

大学院 総合科学技術研究科 農学専攻 准教授 茶山 和敏 ブース：A-04

口頭発表日時：5月13日（金）11:45～12:15 口頭発表会場：ACA-4

発表タイトル：新生児の成長及び免疫機能に対する母乳中ケモカインの効果

【詳細】<http://www.lifescience-world.jp/>

【問合せ先】静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL：053-478-1702

2. 「産学連携学会第14回大会（浜松大会）」を開催します

産学連携学会（浜松大会）を下記の要領で開催いたします。
たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

【開催の趣旨・目的】

産学連携学会は、産学連携に従事する人、産学連携を必要とする人、産学連携を支える人、産学連携に関心のある人すべてを対象とし、産学連携学の確立及び産学連携の発展をとおして、学術や技術の促進と豊かで個性と活性に富んだ社会構築に寄与することを目的として活動しています。

産学連携に関する諸課題について、産学官の学識経験者や実務家などが広く交流し、相互に啓発しあう場として、下記により第14回年次大会を開催します。学会員はもとより産学連携に関心のある方々の多くの参加をお願い申し上げます。

【日 時】

2016年6月16日（木）～17日（金）

【会場と概要】

(1) 会場

●アクトシティ浜松
研修交流センター・コンgresセンター
〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1
TEL 053-451-1111
URL <http://www.actcity.jp/>

●情報交換会（16日（木）18：30～20：00）
オークラアクトシティホテル浜松
〒430-7733 静岡県浜松市中区板屋町111-2
TEL 053-459-0111
URL <http://www.act-okura.co.jp/>

(2) プログラム構成

- 1) 特別講演
- 2) シンポジウム
- 3) 一般講演
- 4) オーガナイズドセッション
- 5) ポスターセッション

(3) 大会参加費 【4/7(木)～当日申込】

正会員/個人法人	6,000円
正会員/学生	3,000円
非会員	9,000円

(4) 情報交換会参加費 【4/7(木)～当日申込】

正会員/個人法人	6,000円
正会員/学生	3,500円

非会員

しずだい産学連携メールマガジンVol100
6,000円

産学連携学会ホームページから「大会情報」にお進みいただき、
「WEBからの申込」フォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
お申込ができない場合は、大会事務局までご連絡ください。

産学連携学会ホームページ
産学連携学会 第14回大会 開催案内
http://www.j-sip.org/annual_meeting/14th_2016/14th_index.html

【組 織】

大会事務局
国立大学法人静岡大学

産学連携学会第14回大会実行委員会
大会長 伊東 幸宏 (静岡大学長)
副大会長 今野 弘之 (浜松医科大学長)
実行委員長 木村 雅和 (静岡大学イノベーション社会連携推進機構長)

【お問い合わせ】

産学連携学会第14回大会実行委員会事務局
E-mail : sangaku2016[at]cjr.shizuoka.ac.jp
Tel : 053-478-1702 Fax : 053-478-1711

《 みんなのコラム -93- 》

記：学術院工学領域 機械工学系列 准教授 伊藤

友孝

私の専門はロボット工学です。

ロボット工学は、機械工学・電気電子工学・情報工学・人間工学などの様々な技術を高度に融合した上に成り立っている学問で、対処すべき課題に対して、ある時は特定の技術分野を深く掘り下げて、またある時は分野横断的に様々な原理やシステムをインテグレートして解決を試みるこ
とができるのがロボット工学の醍醐味であると日々感じております。

私は、これまでに多くの企業の皆様のご支援を賜り、ロボットを援用した知的オートメーションシステムの開発や屋外作業ロボットの開発など様々な共同研究を進めてまいりました。近年、ロボット工学の応用範囲はますます広がってきており、医療や福祉、社会支援など工業以外への貢献も期待されるようになりました。

私も、数年前から浜松医科大学の先生方や地域の複数の高齢者福祉施設の皆様にご協力を頂いて、高齢者の転倒予防問題の解決に取り組んでいます。その取り組みの中で、ロボットに使われるセンシングや情報処理の技術を応用して、高齢者の歩行の様子を計測して個人ごとの歩行特徴を自動的に診断し、転倒の危険性を判断する技術を開発致しました。

毎年、地域の高齢者と触れ合いながら計測と結果のフィードバックを行っておりますが、取り組んでいる課題の重要性を肌で感じられ、とても大切な経験になっています。

最近では、この研究から派生して、不整地でもバランス良く接地でき安心して使えるコンパクトなロボット杖のプロトタイプを開発しました。これは、地面に凹凸があっても自動的に支持脚を伸縮させてそれに対応する多脚型の杖で、学会の賞も頂くことができました。

現在は、実用化段階へのステップアップを目指してパートナー探しをしている所です。基礎研究の推進に加え、社会への積極的な貢献をすることが、これからの大学の大きな役割であると考えています。

「応用ロボットシステム研究室」、社会の役に立ち、実際に使ってもらえる研究をしたいという思いで名付けた研究室名です。共同研究を通じて、厳しい時間や仕様の制約の中で、企業の技術者や地域の皆様と一緒に課題の解決を図る経験は、学生にとっても、実社会を知り生きた技術を学ぶ上での大切な経験になっています。

皆様のこれまでのご支援に心から感謝申し上げますとともに、静岡大学へ今後も変わらぬご支援・ご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

<< 編集後記 >>

3月8日に平成27年度第2回「まだないニーズ創発プログラム」におけるワークショップをアクトシティ浜松コンgresセンターで開催しました。地域の各大学及び産業支援機関のコーディネーター、約30名が「地域の課題解決と変革のため」に今求められるコーディネート活動とは？」をテーマに、求められるコーディネーターの役割、コーディネート活動を円滑に進めるための仕組みについて検討しました。

第一部では、株式会社シュタインバイスジャパンの小堀幸彦社長より「ネットワークを活かした産業支援による競争力強化」をテーマに事業化のみぞを埋める「シュタインバイスモデル」の仕組みや同社のネットワークを活かした産業支援の手法、事例について講演していただきました。

シュタインバイスジャパンは、ドイツ発祥の技術移転、コンサルティング及び開発業務を展開する欧州最大の産学共同組織、シュタインバイス財団の日本市場の統括拠点として1999年に設立されました。世界のシュタインバイスネットワークを活かし研究開発、コンサルティングだけでなく地域大学、金融機関とも近年連携を強めています。

第二部では、「浜松地域に新たな中核企業群を生み出すために」をテーマにグループ討

ページ(4)

論を行
いました。それに先立ち、山形の米沢地域（山形大学を中心とした有機エレクトロニクス
クラス
ター形成）や四国地域（四国TL0による四国国立大学の産学連携の加速）の事例を説明
し、浜松
地域は、輸送機器産業への偏従が産業の空洞化を導き、イノベーションの推進による新産
業創出
が喫緊の課題であることを説明しました。

グループ討論では、地域の中核となる企業を生み出すためのコーディネーターの役割、所
属する
支援機関の連携やイノベーションを創出するための仕組みについて3グループに分かれて
討論を
行いました。

コーディネーターが自らの立場で各自の役割をどのように変化させるか、有効なコーデ
ィネート
活動を可能にするための課題解決組織の仕組みなどについても活発な議論がされましたの
で、
この結果を基に分析・検討して、浜松地域の産学連携組織の強化に繋げていきます。

* — *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：三輪妙子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* — *

Copyright (c) 2008-2016
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved